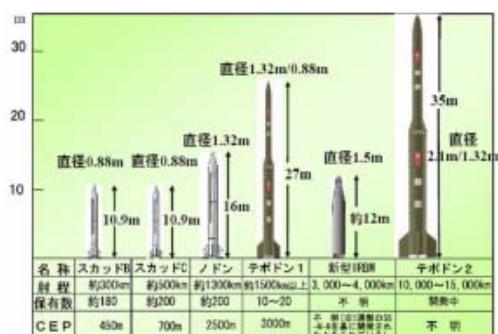


スペースシャトルの打ち上げが成功するか或いはワールドカップ準決勝でフランスが勝つのかどうかに関心集中する中、北朝鮮が、未明から立て続けに 7 発のミサイルを日本海に発射し、日本のみならず世界を震撼させた。

テポドンの発射準備とも取れる行動が確認されていたとはいえ、まさか米国の独立記念日に呼応しての発射は想定外であった。最も政府や防衛庁には相応の情報が寄せられ、或いは収集していたようだが・・・寝耳に水ということではなかった筈だ。

蛇足ながら、横田めぐみさんの夫とされる金英男氏の茶番の肉親との再開・記者会見そして嘘を糊塗するための更なる虚言、恥ずかしくないのだろうか。公開した写真もなんとなく胡乱臭い。



(北朝鮮のミサイル)

● NK の意図は何か！

瀬戸際外交とか政策とか言われるが、過去に弱者の脅迫に遭って利益を与えた先例があるが故に、現在の関係諸国も同様であると真剣に思っているのだろうか。疑問なしとはしないが、それ以外に考えられないのも事実だ。

最後のカードのうちミサイルカードを使ってしまったら、後は本当に核カードを切るのだろうか。瀬戸際政策を正しいと信ずる限りにおいてはそうなのだろう。

麻薬や偽札と共に外貨獲得のメインであるミサイル技術の実効性を誇示したとの見方もあるようだ。その限りにおいてはテポドンの再発射の確率は相当に高い。

● 実戦能力を実証！

ノドンやスカッドミサイルは実戦配備されていると言われて久しい。然しながら、その実戦能力についてはやや懐疑的であった。今回連続的に発射して何れも目に見える失敗ではないということは、実戦能力を実証したと言えるのではなかろうか。

● 開発能力の限界露呈！

5月中旬以来発射準備を推進中であるとも言われたテポドンが、実際に発射はされたものの、どうやら失敗に終わったらしいということは、北朝鮮の開発能力の限界を露呈したと言えなくもないと思料する。ミサイルカードの最大のカードであるテポドンの失敗は北朝鮮にとって許されざることである。従って、金正日主席が現地に趣き督励して再発射をする可能性が高い。彼等にとってはテポドンを是非とも成功させねば米国に対する切り札足り得ないのである。

● 自壊へ！

瀬戸際外交、先軍政治で国民の疲弊をよそにミサイルや核の開発を急ぐ北朝鮮はついに引き返すことの出来ない自壊への道を歩き始めたようだ。国際社会として意図的

に北朝鮮を戦略的に崩壊に導かずとも、熟柿柿が落ちるかの如くなるだろう。

問題は自壊に伴う混乱に国際社会としてどう対応すべきかを考えておく必要があるだろう。

● 宥和政策の大失敗！

英国チェンバレン首相のナチドイツに対する例を挙げるまでもなく、歴史的に宥和政策が成功した例はない。韓国ノムヒョン大統領の大失敗と言わずして何という。顔に泥を塗られたのである。韓国国内において政府非難の声が澎湃として上がるのも当然だ。如何に責任をとるのだろうか。

● 事態認識は妥当か？

10 発に近い日本を射程内とするミサイルの発射は武力による威嚇以外の何物でもないと認識すべきではないか。今回のミサイル発射は、実験の域を遥かに超えている。周辺事態なのか、或いは緊急対処事態なのか等の判断が必要だろう。

● 毅然たる対応 威嚇に屈するな

日本が安保理決議の採択を目指して活動していることに対し、破局的結末を迎える云々と最終通告にも似た威嚇を行った。日本人はもう目覚めた筈である。対話と圧力と言うけれども、その様な論理が如何に空虚なものか御存じないのだろうか。脅迫までする国に敢えてこちらから閉ざす必要はないにしても、彼らが和を請うて来るなら考えても良いが、そうでないのに対話対話などという必要があるだろうか。対話が成立する土俵などないではないか。幻想を抱くべきではない。

何れにしろ、如何なる事態が起きようともわが国として毅然とした対応をすべきであり、そのために措置すべき事項が多々ある筈であり、準備をすべきではないか。

お互いエスカレートするのは得策ではないというが、一方的に威嚇されっぱなしで、いざという場合に臍をかまないという保障があるか。

● 国民保護上の観点から

ミサイル発射の兆候がある場合にどの程度国民に対し情報を公開すべきか、難しい問題である。緊張状態にあって何時打ち込まれても可笑しくない状態の時にはそれなりに情報が公開されるだろうが、奇襲的な弾道ミサイル発射にはどう対応すべきか、苦渋の決断が求められよう。

国民保護における警報システムの早急なる開発・整備が必要だ。

● 防衛力整備上

弾道ミサイル防衛の不十分さが白日に曝されたかもしれない。まだまだ不十分である。情報収集の体制、迎撃態勢、反撃に関する体制やそれらに掛かる法的諸問題等、早急に措置すべきだろう。